

大気環境中のアスベスト濃度について

◆令和7年度の調査結果をお知らせします◆

横浜市では、市域における大気環境中のアスベスト濃度の実態を把握するためアスベスト濃度調査を、平成18年度から実施しています。

平成22年度からは、毎年市内6区6地点で調査を実施しています^{※1}。このたび、令和7年度の結果がまとまりましたのでお知らせします。

【調査結果】

年間を通じて、各地点の濃度の範囲は、不検出（0.045未満）～0.094本／リットルでした。

大気環境中のアスベストには環境基準はありませんが、WHOの環境保健クライテリア^{※2}によると、世界の都市部の一般環境中のアスベスト濃度は、1本～10本／リットル程度であり、この程度であれば健康リスクは検出できないほど低いと記載されておりますので、本市の調査結果についても 問題になるレベルではないと考えています。

令和7年度 一般環境大気中のアスベスト濃度の調査結果（単位：本／リットル）

No.	調査地点	アスベスト濃度 ^{※3}	
		夏季	冬季
		8/26-27	1/27-28
1	神奈川区広台太田町	不検出 (0.047 未満)	不検出 (0.048 未満)
2	南区南太田	不検出 (0.046 未満)	0.047
3	港南区野庭町	0.044	0.094
4	旭区鶴ヶ峰	不検出 (0.045 未満)	不検出 (0.047 未満)
5	金沢区富岡東	不検出 (0.046 未満)	不検出 (0.046 未満)
6	都筑区茅ヶ崎中央	不検出 (0.057 未満)	不検出 (0.049 未満)

※1 平成18年度から平成21年度まで、市内18地点（各区1地点ずつ）で調査を行ってきました。平成22年度からは、毎年市内6区6地点を順次調査し、3年間で全区を調査します。

※2 環境保健クライテリアとは、世界保健機関（WHO）、国際労働機関（ILO）及び国連環境計画（UNEP）が共同で実施している国際化学物質安全性計画（IPCS）において、化学物質ごとに人の健康に及ぼす影響を総合的に評価して取りまとめたものです。

※3 アスベストの測定は、期間中の24時間の試料採取によるものです。